

岐阜県瑞浪市  
大湫町地域計画 2024

大湫町地域計画2024

発行年月：令和6年2月  
大湫町コミュニティ推進協議会

住所：瑞浪市大湫町422-1  
電話：0572-63-2360

岐阜県清流の国ぎふ推進補助金を活用しています



## はじめに

わたしたちが暮らす地域には、人口減少や少子高齢化によって様々な課題が生じています。

この地域計画は、令和2年度に策定した「大湫町ミライ総合振興計画」から町の将来像と、重点的に取り組む計画を抜粋したものです。

大湫町は、昭和61年に市内で最初のまちづくり組織として大湫町コミュニティ推進協議会を立ち上げてから、広報大湫発行を皮切りに個性的な委員会活動を展開し、大湫町野外自然博物館構想やナショナルトラストなどの取組を通じて未来に向けた計画を練り、町民一丸となって積極的に住みよいまちづくりに努めてきました。

「大湫町ミライ総合振興計画」は、大湫町でまちづくりを行ってきた方々の計画や思想を継承しつつ、新たな時代の流れや課題に対応したものになっています。

ひとり一人の行動が、これからの大湫町を支えます。

今後も、多様な世代で意見を交わしながら活動をし、私たちのふるさと大湫町を未来の子どもたちに、確かに引き継いでいきましょう。

## 今、大湫町がかかえる課題や困りごと

### 人口減を緩やかに

大湫町の人口は、減少を続けています。転入対策委員会が主体となり平成26年から取り組んでいる町独自の転入対策では、市の移住定住政策の支援を受けながら、4年間で30人の移住者を呼び込む大きな成果を上げています。今後も大湫町を存続させていくには、こうした取組を続け、次世代を担う若者世代や子どもの数を増やすことが最も重要です。

### 里山の維持

町民皆で行っている年間3回の草刈りは重要な自治活動の1つで、田舎暮らしの基本です。しかし、年々手入れの行き届かない山林や、道路、休耕地なども増えています。町の維持活動に関わる人の高齢化や、人口そのものが減っている一方で、手を入れなければならない場所が増えていることが課題です。

### 独居・高齢世帯の増加

大湫町の高齢化率は、45%を超えています。65歳以上75歳未満の前期高齢者は今のまちづくり活動を支える世代ですが、2018年からは減少に転じています。また、独居老人や老人世帯も着実に増加し、心身両面での支援体制の強化が求められています。

### 行事や役の負担が多い

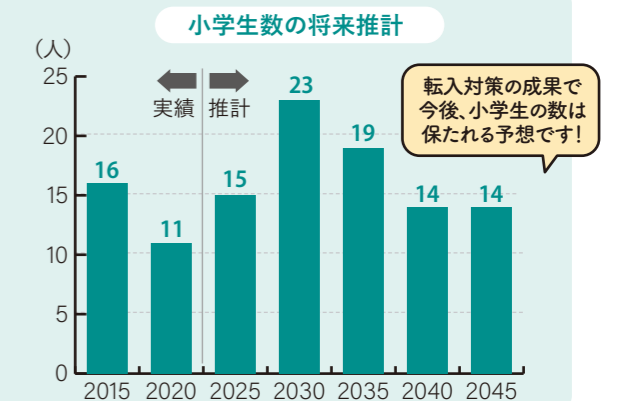
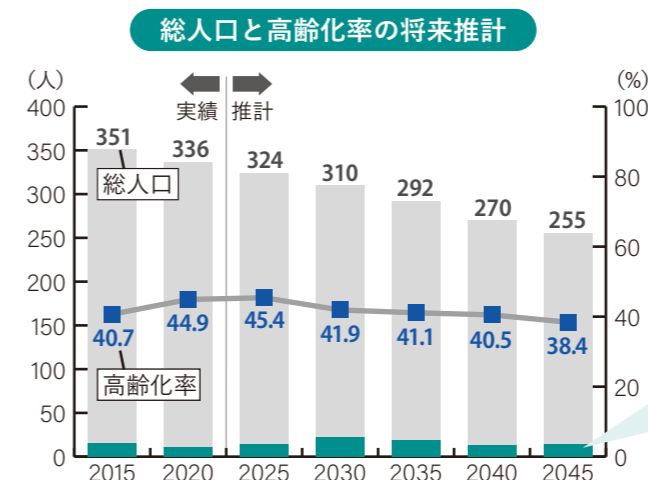
町の規模に対して行事や役の数が多く、今までと同じ規模で取組や行事を続けるのは限界にきています。まちづくりを担う世代は、1つの役職に就くと付随して役が増え、多数の役を兼務しています。高齢の方は年々体力も衰える中、独居世帯では特に活動への参画が厳しくなっています。子育て世代は、仕事・子育て・PTA活動や消防があり、小中学校の統合で見守りの範囲が広がったり、大湫町外への会議への行き来も増えています。皆が無理なく続けられる体制づくりを考えていく必要があります。

### 次の世代は、

### 今の60代70代の半数しかいません

現在まちづくりを担っている60代・70代の人数と、次世代の30代・40代・50代の人数を比べると、次世代は半分しかいません。今までと同じ規模で取組や行事を続けた場合、1人に2倍の負担がかかることになってしまいます。町民にとって必要不可欠なことに優先順位をつけ、見直しや統合をしていく必要があります。同時に、新しいことに挑戦しやすい町を目指して、若者や女性も含めて誰もがのびのびと発言できる気風を育んでいくことも大切です。

## この先、大湫町の人口はどうなる？



## 大湫町の将来像

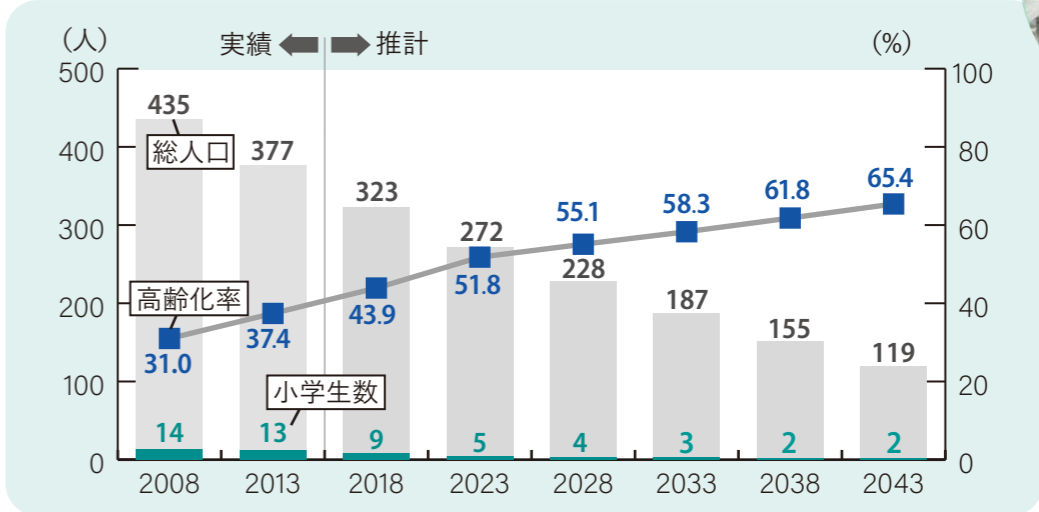
# 30年後も、 大湫町が大湫町として存続していること

大湫町に暮らす私たち住民の幸福度が高まり、これからも大湫町で暮らし続けられるよう  
下記の姿を目指して地域づくりに取り組みます

- 1 子どもは地域の宝です。地域の皆で守り育てる町を目指します。
- 2 大湫町で暮らしたい人を積極的に受け入れ、人口減少が緩やかになっていることを目指します。
- 3 独居・高齢世帯をはじめ  
皆が安心して暮らせる見守り体制・支え合いの地域を目指します。
- 4 地域の自治活動は、ひとり多役からひとり一役での支え合いへ再編し  
無理のない地域運営体制と相互扶助の活きた町を目指します。
- 5 町民だけで出来ないことは、  
町外在住者や専門家、行政などと協働して取り組む町を目指します。
- 6 大湫ならではの里山にあふれる自然・歴史ある宿場・まち並みを  
地域の財産として皆が認識し、触れ合い、守り、活用することを目指します。
- 7 それぞれがお互いの暮らしを尊重し合い、  
大湫での暮らしが楽しいと思える町を目指します。

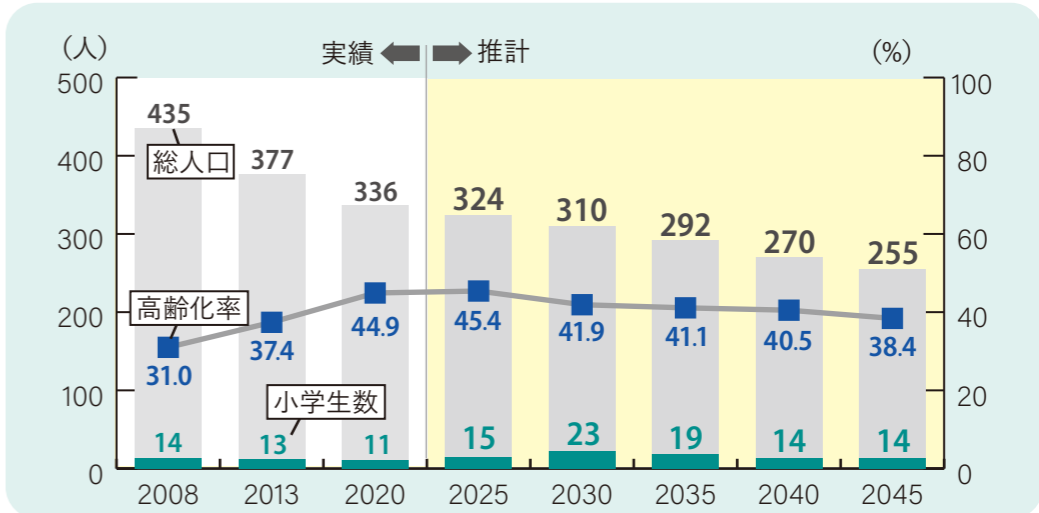


転入対策を始める前(2013年)の人口将来予測



大湫の未来に  
変化が生まれています!

転入対策を始めてから(2020年)の人口将来予測



予測通りには進まないかもしれませんが、取り組みによって将来予測は確実に  
変化してきています。大湫町の存続へ、今後も一步一步進めていきましょう。



## 10年後の目標・行動計画・実施体制

2021年策定の大湫町ミライ総合振興計画より、抜粋

### 目標 大湫で暮らしたい人を、あたたかく迎え入れる地域づくり (毎年、1組の移住者を迎え入れる)

移住

- 計画**
- ・空き家・空き地バンク整備  
- 転入対策委員会や顔の広い町の有志が中心となり、情報を把握する(月1回を継続実施)  
- お店や事務所として活用可能な物件は積極的に情報開示し、町でビジネスをしたい人を呼び込む
  - ・住宅用地の整備  
- 空き家以外でも大湫に住めるように、住宅用地を整備する(住宅用地整備計画として地図にマッピング済)
  - ・住民理解の推進  
- 家を空き家にしない対策の勉強会、先進事例を学ぶ勉強会を開催する(年1回程度)  
- 「空き家を快く次の人へつなげていこう」との方針を広報大湫で示し続け、地域ぐるみで取り組む雰囲気づくりをする(年1回程度)
  - ・交流会の実施  
- 移住者との交流会を実施し、相互の親睦を深める

**体制** 🏡 転入対策委員会、コミュニティ推進協議会

今後の大湫町のまちづくりを支える鍵は、移住者をどのように呼び込み、大湫町に馴染んで暮らしてもらえるかにかかっています。移住者も受け入れる側も、お互いが気持ちの良い状態で暮らしていけることが重要です。最近、空き家に入る人だけでなく新築を建て転入する人もいるため、選択肢を示せるように、今後は宅地整備の取り組みにも力をいれていきます。

### 目標 子どもは地域の宝! みんなで見守り育て、町の中で子どもの声が出る地域

子ども

- 計画**
- ・大湫をみんなで誇れるまちにする事業  
- 子どもたちが「大湫の町が楽しい!」と思える体験を、住民が企画・提案し、てててチームがサポートして実施する(鯨つかみ、親子抹茶会、粘土遊び、大杉前での七五三、ハロウィンイベント、クリスマスケーキ作りなど)
  - ・ててて寄り合い(オンライン)  
- イベント等の企画会議、互いの近況報告、やってみたいことを気軽に意見交換する(3ヶ月に1回程度)

**体制** 🏡 大湫若手チームててて 🤝 コミュニティ推進協議会が協働

子育て現役世代の声や思いに沿った取り組みを、今後も継続していきます。小学校がないからこそ、町での楽しい経験・思い出をたくさん積み重ね、進学で大湫を一度出て行っても「やっぱり大湫で暮らしたい」と戻ってきたくなるような町にしたいです。長期的な視点で取り組んでいきます。

自然

### 目標 「美しい大湫」を、これからも 町民が町の自然に親しみ、里山を育む

- 計画**
- ・ボランティア草刈り隊の再編  
- 日当制も視野に入れ組織の再編成を行う
  - ・環境林整備活動  
- 災害に強い森づくりを軸とし、個人保有林も含め整備管理を継続実施する
  - ・大杉の森整備活動  
- 「1000年後の森づくり」を軸とし、町外在住者も含めた整備者を育成する
  - ・モニタリング調査  
- 在来外来種の様子や植物の衰退変化の調査を継続実施する

**体制** 🏡 自然保全委員会、コミュニティ推進協議会

大湫町の豊かな自然は、かけがえのない財産であり、町の自慢です。放置された里山を再び利用し、調和のとれた風景を取り戻し、人々や動植物が暮らしやすい環境を作っていくことは言うほど簡単なことではありませんが、目指すべき姿です。普段の暮らしの中で少し自然に目を向け、まずは町民が町の自然に親しむことが保全への第一歩になります。

大杉

### 目標 新しい形で生まれ変わった大杉を、 町民の心の拠り所、シンボルとして活かし続ける

- 計画**
- ① 伝承: しめ縄をかけ続ける、人々の心の伝承
  - ② 育成: 大杉の遺伝子を受け継ぐ苗木の管理・育成、植樹
  - ③ 活用: 大杉に関するイベント実施(大杉音元、抹茶会)  
大杉での研究結果や取り組みを後世に伝える方法を模索する

自治

### 目標 ひとり多役から、ひとり一役で成り立つ地域

- 計画**
- ・まちづくり体制の見直し  
- 役の偏り負担量などの現状把握に努め、どのように解決に取り組むか方針を立てる  
- 各区内での協議や区長采配で見直し可能なものは、都度行っていく
  - ・定期的なミライ総合振興計画の評価  
- 2021年策定の計画は、定期的に振り返り会議を実施し、都度見直していく(分野別計画は5年に1回程度)  
- 全住民対象のアンケート調査を実施し、達成度の確認、課題把握、町民の声を再反映する(数年に1回程度)

**体制** 🏡 コミュニティ推進協議会

人口減少や社会の移り変わりに合わせて、無理のないまちづくり体制への見直しが必要です。一気に変えていくのは難しいですが、10年後にひとり一役で支え合える体制を目指して整備します。また、若い世代が新しい取り組みを行いやすい仕組みの検討・導入も進めていきます。